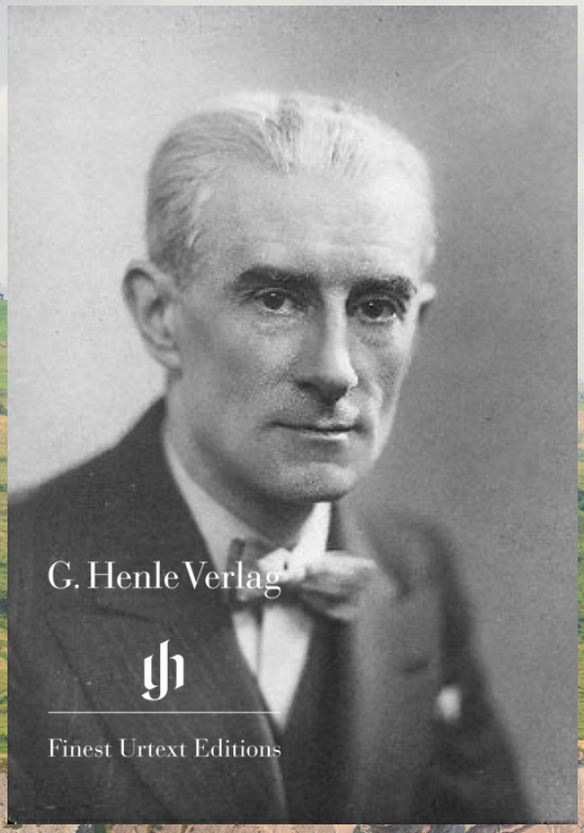
さまざまなスタイルの要素を洗練のリズムでミックスした、輝かしい作品

# M. ラヴェル

## ピアノ協奏曲
## ト長調




### この作品は ...

- 新古典主義の最も重要なスタンダード作品のひとつで、ラヴェルによればモーツァルトとサン＝サーンスの精神を受け継いだ協奏曲。
- スペイン・バスク地方の民謡やジャズ、クラシックといった、さまざまなスタイルの要素が重なり合っています。
- ラヴェルは『左手のためのピアノ協奏曲』と同時進行でこの協奏曲を書きました。しかし両者はまったく異なります。
- この作品は、ピアニストの友人マルグリット・ロンに献呈されました。ラヴェル自身が初演の独奏を担当するつもりでしたが、準備に十分な時間が確保できないと認識せざるを得ず、ロンが代わりに演奏しました。

### ヘンレ版について

- 自筆のスコア譜を最も重要な二次資料と評価しています。
- ロンの孫弟子パスカル・ロジェが運指を担当しています。

もっとも有名な

... 楽章

- 第2楽章「アダージョ・アッサイ」は、冒頭部分に長い無伴奏のピアノ・カンティレーナがあります。
（第1-36小節目）

... 演奏家 / 演奏

- フランス人のピアニスト、マルグリット・ロンが初演とそれに続くヨーロッパツアーで独奏し、ラヴェルが指揮しました。
- 今日、この協奏曲はあらゆる偉大なピアニストのレパートリーとなっています。